

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 6 日現在

機関番号：34415

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21510295

研究課題名（和文）アーレントの「世界愛」で照射する 21 世紀の東北アジアの「和解」の条件

研究課題名（英文）The 21st century's Northeast Asian Reconciliation in the Mirror Image of Arendt's "world love (Amor Mundi)"

研究代表者

志水 紀代子 (SHIMIZU KIYOKO)

追手門学院大学 名誉教授

研究者番号：50079399

研究成果の概要（和文）：

アーレントの「世界愛」をヒントに、東北アジア地域に平和をもたらす「和解」の具体的な条件を探ろうとしてきたが、最終的に、「慰安婦」問題の真の解決に向けて、「国民基金」設立によって分断され、対立してきた支援運動関係者が、対等に議論する場を構築することが出来て、新たな一歩を踏み出した。

研究成果の概要（英文）：

We have tried to look for the conditions for "reconciliation" which may bring peace to the northeast Asia in light of the "world love (Amor Mundi)" in Hannah Arendt. As a result, we could arrange a forum, aiming a true solution of the "comfort woman" issue for the activists divided by the "Asian Women's fund" to frankly discuss together. We hope that it could be a new step forward.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：「慰安婦」問題の真の解決・政治的解決と正義の問題・民主主義と公共性・草の根市民の異文化理解・横断するポピュラーカルチャー・日韓交流とドラマ

1. 研究開始当初の背景

本研究は、古来多岐にわたる重層的な交流があったにも関わらず、20 世紀に入って植

民地政策や戦争内戦によって未だに分断されたままの国家が 21 世紀に持ち越され敵対している東北アジア地域に、平和をもたらす

「和解」の具体的な条件を探ろうとしていた。アーレントの「世界愛」をヒントに、研究代表者がこれまで行ってきたフィールド調査から、独仏の共通歴史教科書発刊の経緯や、G.エッカート国際教科書研究所の活動を参考にしながら、この地域固有の問題状況に新たに独自の視点から切り込むことによって、将来的な展望を見出そうとするものであった。

2. 研究の目的

本研究代表者は、1997年に、「慰安婦」問題をフェミニズムの視点に立って理論的に解明していくことを目指して「女性・戦争・人権」学会を有志で立ち上げ、韓国の研究者と交流をもってきたが、2005年10月に、その成果である『ジェンダーの視点で見る日韓近現代史』を完成、両国で同時出版をすることができた。

このプロジェクトが進行する間に韓流ブームが起り、多くの日本の女性たちが韓国に関心を持ち、韓国文化やハングルの勉強をして、韓国に旅行するようになった。

しかしながら、他方で、東北アジアにおける政治的・歴史的な認識の溝はなお埋められてはおらず、このようなことに関心を持たない彼女たちの潜在的な平和希求の願いを掘り起こし、世界にむけてその力を発揮して、東北アジアの不測の事態を避けるようにするにはどうすればいいかが、課題になった。

日本と韓国で『和解について一教科書・慰安婦・靖国・独島』を出版して、大きな問題提起をされた世宗大の朴裕河氏が研究協力者として参加されることになり、日韓双方で、韓流に関わる人たちも含め、右翼的・左翼的思考双方の人たちにも聞き取りをして、「和解の妨げになっている問題点」を徹底的に掘り下げ、それを明らかにしたい。日韓両国で、

政治と文化を切り離して考えようとしている人たちが多いが、その仕組みや背景について追究し、そのような仕組みの何が問題なのかを徹底的に明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、ここ十年の『歴史和解』問題をめぐる日韓関係者の葛藤自体をも歴史化して俎上にあげることも含め、現実には研究代表者と研究分担者、更に研究協力者がそれぞれにこれまで行ってきた研究・実践活動を持ち寄って、アーレントの「世界愛」の思想をもとにして、東北アジアで21世紀に起こっている人々の交流を、いかにして東北アジアの共生・共存の世界構築に向けていけるかを、ジェンダーの視点から考えて見ようとするものである。日韓のこれまでの研究成果を踏まえつつ、特に、大衆文化交流という、いわばサブカルチャーの側面にも光を当て、特に女性の日常性の中に入りこみ、平和を共有していくための歴史の共有の視点を掘り起こし、「和解」のための条件を見つけ出していきたいと思ってきた。このような切り口からの追求は、これまでにはないものではないかと考える。

4. 研究成果

アーレントの「世界愛」をヒントに、東北アジア地域に平和をもたらす「和解」の具体的な条件を探ろうとしてきたが、最終的に、「慰安婦」問題の真の解決に向けて、「国民基金」設立によって分断され、対立してきた支援運動関係者が、対等に議論する場を構築することが出来て、新たな一歩を踏み出した。

大衆文化交流に関しては、韓国ドラマを切り口にして、日韓の文化理解を深めるドラマ講座の活動を進めることができた。講座を通して多くのドラマファンと接することで、

2000年代初めの“冬ソナ”に始まった韓流ファン第一世代が進化していることがわかった。彼女/彼らは、韓国への関心をさらに深めているが、日本で展開する商業主義的な韓流ではその欲求や関心が満たされていない。そうした中で、ドラマ講座の実践は、韓流ファンたちのアイデンティティ（女性、主婦、母親、日本人、在日など）とドラマの背景に展開する韓国社会、韓国の人々を関連づけることができた。今後、さらなる実践を通して、日韓の「和解」の具体的な条件に欠かせない文化理解の礎を築くことができるとの確信を得た。

なお、上記した本科研の最後の仕上げとして同志社大学今出川キャンパスの明德館で開催された意見交換の場としてのシンポジウム（2012年3月10日）は、混乱もなく、企画した意図に概ね沿う形で白熱した議論が展開され、主催者、パネリスト、会場の聴衆が一体となって有意義なひと時を共有したのだったが、この日の記録を残すべくその後全体のテープ起こしを行って、目下今年中に冊子として刊行するべく編集作業に入ったところである。なおWAN（ウイメンズアクションネットワーク）のホームページで、パネリストの一人であった岡野八代氏がこのシンポジウムの報告を連載している。

(<http://wan.or.jp/reading/?p=6633>)

また、別紙 pdf で添付しているシンポジウム当日の資料を参照していただければと思う。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

- ① 志水紀代子 亀喜信『ハンナ・アレント―伝えることの人間学』（書評）『倫理学研究』41号、依頼論文で査読なし、2011、pp159-171
- ② 志水紀代子 東北アジアの『和解』に向けて―2―再び『人間の条件』を紐解きながら、追手門学院大学心理学部紀要第5巻、査読なし、pp19-34
- ③ 志水紀代子 H. アーレント『人間の条件』（1958）、社会学ベーシックス 伊藤俊・伊藤公雄編 『政治・権力・公共性』9巻 世界思想社 査読あり（依頼）、2011、pp157-166
- ④ 志水紀代子 アーレントの「世界愛（Amor Mundi）」から照射する東北アジアの和解の条件―「慰安婦」問題の解決に向けてのシンポジウムを企画して―『倫理学研究』42号依頼論文で査読なし、2012、pp. 48-63
- ⑤ 山下英愛、メディア社会を生きる：韓国ドラマを読み解く、ヒューライツ 271号、査読無、2010、pp. 40-43
- ⑥ 山下英愛、日本における韓流ドラマ翻訳とジェンダー：“冬のソナタ”を中心に、生存学研究センター報告（立命館大学）、査読無、No. 15、2010、pp. 62-69
- ⑦ 山下英愛、韓国ドラマことはじめ、在日女性文学 地に舟をこげ、査読無、No. 5、2010、pp. 176-181
- ⑧ 山下英愛、女たちの韓流（1～26）、2010. 2-2012. 3

WAN: <http://wan.or.jp/reading/?cat=20>

〔学会発表〕（計 18 件）

- ① 志水紀代子 「アーレントの「世界愛」から照射する東北アジアの和解の条件について」、関西倫理学会 2011 年度大会、関西大学、2011.10.29
- ② 山下英愛、「慰安婦」問題とナショナリズムー「在日」アイデンティティの葛藤を通して、南山大学アジア・太平洋研究センター、2009. 5. 14
- ③ 山下英愛、越境する韓国ドラマー家父長制とジェンダーを中心に、（韓国）聖公会大学東アジア研究所主催国際シンポジウム、2009. 5. 29
- ④ 山下英愛、日本における韓流ドラマ翻訳とジェンダーー“冬のソナタ”を中心に、立命館大学大学院先端総合学術研究科主催国際シンポジウム<日本における翻訳学の行方>、2010. 1. 9
- ⑤ 山下英愛、韓国ドラマの受容とジェンダー、科研特別公開学習会<日韓文化交流の現在>、2010. 1. 11
- ⑥ 山下英愛、韓国ドラマを楽しむー女性たちの生き方、ジェンダーフリーネット茨木、茨木市立男女共生センター、2010. 5. 8/6. 12
- ⑦ 山下英愛、和解と平和を求めてー併合 100 年ーの視点から考える「慰安婦」問題、日本基督教協議会（NCC）女性委員会、2010. 6. 24
- ⑧ 山下英愛、韓国ドラマで学ぶ女性学、市民のための人権大学院・公開プレ講座じんけん SCHOLA、2010、9. 28, 10. 5, 12, 19, 26, 11. 2, 9, 16, 30, 12. 7
- ⑨ 山下英愛、韓ドラとジェンダーー視点を広げ、理解を深めよう、豊中「人権文化のまちづくり講座」、2011. 4. 28
- ⑩ 山下英愛、韓国ドラマに見る女性たちー変革への歩み、そして今ー、名古屋<つなぐれつとまつり 2011>、2011. 6. 25
- ⑪ 山下英愛、現代韓国社会と女性たちードラマで辿る女性パワーの歴史、ヒューライツ大阪、2011. 7. 28
- ⑫ 山下英愛、ドラマで学ぶ韓国の家族、駐日韓国文化院主催<教職員韓国文化研修会>2011. 8. 1
- ⑬ 山下英愛、ジェンダーの視点でみる韓国ドラマ、愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所、2011. 11. 24
- ⑭ 山下英愛、韓国ドラマから情報を読み解く力をつけるードラマで見る、韓国家族と女性の変化、高槻市男女共同参画センター、2011. 12. 14
- ⑮ 山下英愛、韓流ドラマで日韓交流、富山「韓国併合 100 年」連続講座第二期第 5 回、2012. 2. 4
- ⑯ 山下英愛、お隣の国の共同参画、赤穂市男女共同参画フォーラム、2012. 2. 18
- ⑰ 山下英愛、韓国ドラマを 2 倍楽しむ方法ードラマの歴史と背景を知ろう、尼崎女性フェスティバル記念講演会、2012. 3. 4
- ⑱ 山下英愛、ドラマで見る韓国ー女性像の歴史的変遷、駐大阪韓国文化院、2012. 3. 24

〔図書〕（計 3 件）

- ① 金栄/宋連玉/金富子/林博史/庵途由香/辛珠栢/山下英愛 共著、軍隊と性暴力ー朝鮮半島の 20 世紀（担当「韓国における性売買政策の概観」）、現代史料出版、2010、390
- ② Kumiko Fujimura-Fanselow ed. *Transforming Japan: How Feminism and Diversity making a Difference* (Yeong-Ae Yamashita, Revisiting the “Comfort Women”: Moving beyond Nationalism)、2011.407

③ 山下英愛、박은미 옮김,내셔널리즘
의탐 새에서-위안부 문제를 보는 또
하나의시각、한울아카데미、2012、300

[産業財産權]

○出願狀況 (計 0 件)

名称 :

發明者 :

權利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得狀況 (計 0 件)

名称 :

發明者 :

權利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

志水 紀代子 (SHIMIZU KIYOKO)

研究者番号 : 50079399

(2) 研究分担者

山下 英愛 (YAMASHITA YEONG-AE)

研究者番号 : 80536235

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :